多摩大学目黒中学校　研究授業指導案

日時：2017 年 11 月 13 日（月）6 限
対象：中学 2 年 A～C 組
場所：オープンスペース
担当：井上忍武・中２担任団等

1. 本授業の扱い

本校では中学全学年に週１時間ずつ道徳の時間がある。この時間に、AL 基礎力の育成として[活動]の時間を設けている。毎週ではないが、[活動]の時間はグループワーク・表現活動・ICT 能力育成・表現力育成教材「クリティカルシンキング」などを使用している。

中学校での校内 AL 活動で基礎力を身につけることで、各教科の通常授業に対する姿勢を改善し、高校からの校外活動をより教育効果の高いものとする。

2. [活動]の目標

身の回りや社会の中に自ら課題を発見し、根拠を持って意見を正しく表現し解決する力と姿勢をつける。また、周りと協働する力や ICT 能力の育成もはかる。

3. 生徒の様子

入学時より AL 活動を経験しており、各自が意見を出しやすい雰囲気を持っている。また、グループワークにも比較的慣れている。ただし、中学 2 年生になり男女間での協働を恥ずかしがることも増えてきた。

A･B 組は特進クラスで、発言は出やすい。C 組のみ進学クラスで、自信が無いためか発言は出にくい。同様にグループワークの得手不得手も A･B と C で異なる。

作品作りに関しては、考える時間の長い A･B 組よりも C 組の方がすぐに動ける。

4. 本時の目的

小論文製作で使った「情報収集」「情報整理」、新聞切り抜きで使った「まとめ方」、仲間との「役割分担・協力」で、班毎に各都道府県を紹介する。

これまでの様々な活動で学んだ手法を反復して定着させることがねらいである。

5. 本活動の流れ

①・調査担当の県と各自の役割を決める　・調査用紙の入手　・調査開始
② 集めた資料を使ってキャラクターを作る
③ ポスターセッション形式で発表し、人気投票、感想・反省を行う。

5. 今年度の[活動]の内容について（２年目）

１新聞切り抜きまとめ

目的：情報収集力を高める・問いを見つける力を高める。

必要な情報だけを検索するのではなく、周辺の情報や関連する情報にも目を通して新たな発見をさせる。そこで「情報収集→まとめテーマの発見→情報収集」という流れによって、一つの大きなキーワード（お題）の中から、更に詳しく調査する為の小テーマを発見させ、論題の絞り込みができるようにする。

方法：①班で１つのキーワードを決め、それが含まれている記事を iPad で撮影し集める

②集めた記事に目を通し、どのような情報が載っているかマインドマップを作成して分析し、まとめ新聞を作るための見出しを考える。

③模造紙に見出しをつけて記事を貼り、重要な部分をペンで強調して、まとめ新聞を作成する。

①iPad で記事を収集

②マインドマップで情報を整理

③完成例 記事集めキーワード「先端技術」から、見出しは「ロボットは人の仕事を奪うのか？」

生徒の様子：「北朝鮮」「天皇陛下退位」「築地市場移転」等の時事問題に対する関心は高いが、それらがどのような課題を抱えているのかを知ることができた。新聞のつくりを学び、しっかりと読む機会にもなった。（半数の家庭が新聞をとっていない）

２ 小論文作成

目的：課題発見と解決の実践

論題を決めて情報収集、情報整理、結論を導き文章化するという流れを体験する。自ら課題を発見し、根拠を持って意見を正しく表現することの価値を伝える。

方法：①良い論題と悪い論題を見分けるワークシートに取り組む。

②論題を作る。（６月の研究授業）

→司書教諭が全生徒の論題をチェックし、調べ方のアドバイスを行う。

③図書館の使い方を学ぶ。

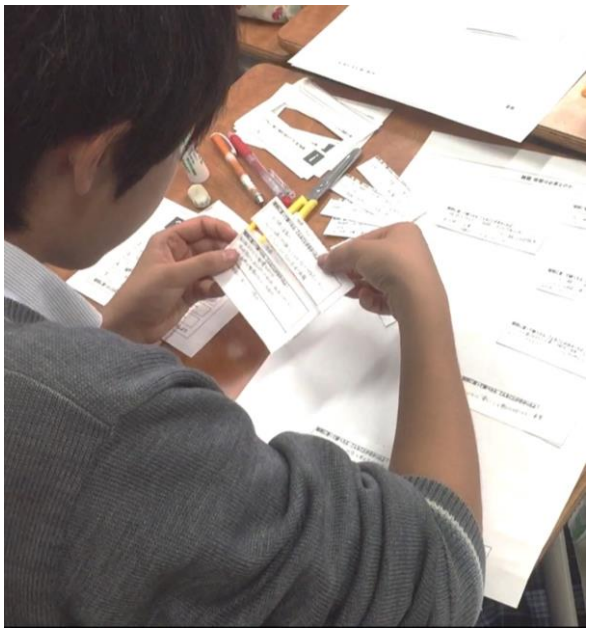
④図書館で論題に関する本を探し、取材用紙で情報を収集して論題に対する結論を書く。

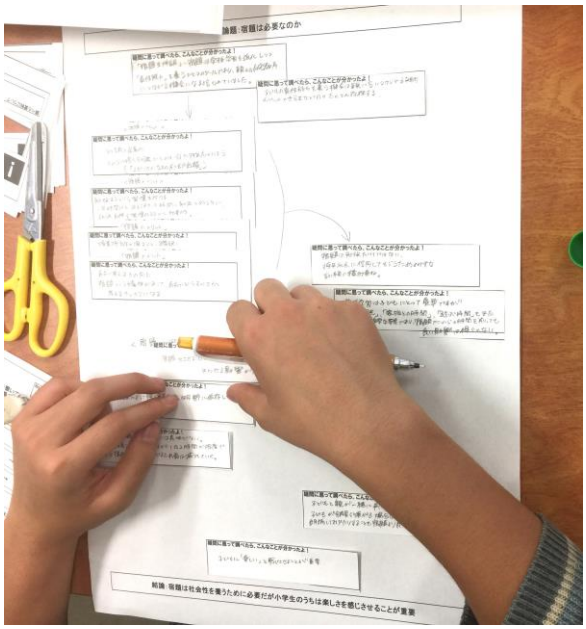
⑤どの情報をどのように用いて結論を導いたのか、自分の思考過程をまとめる。

⑥⑤を見ながら四部構成で小論文を書く。

⑦国語科の教員が添削した自分の小論文と、良い作品の紹介をもとに反省・感想を書く。

⑤取材用紙を紙に貼って線でつなぎ、どのような根拠をもとに結論を導いたのか、情報を整理する。





生徒の様子：当初の予定ではある程度きちんとした小論文になると予想していた。しかし、小論文に適さない論題が多数見られたことや、図書館で調べた内容に偏りが見られたことから、④の後に目標を「下方修正」した。取材メモを切り貼りすることで情報収集と整理の仕方を身につけることと、一旦文章化まで経験することで論題作りのポイントをつかませることを目標とした。その結果、⑤や⑥の活動中に自ら「論題を変えていいですか」や「調べ直していいですか」、「結論を変えていいですか」と気づく生徒が多く見られた。もう一度小論文製作をする際には、見通しを立てて論題作りからできると期待される。（一回で良い小論文を作らせるには、教員がかなり手を加える必要がある。しかしそれはこの活動の目的ではないので、今回は失敗してでも自分で気づくことが大切だと考える（ことにした））

6.本時の展開

	活動内容	指導上の留意点
導入 10分	本時の活動の説明 ・活動の目的が協働力の向上であることを明確にする。 ・班長は美術の教員が選んだ、絵の描ける生徒であることを伝える。	・班内の一人が突っ走って良い作品を作っても意味がないことを理解させる。
展開 30分	ポスターの作成 ・キャラクターのデザインを描く。 ・キャラクターの名前をつける。 ・キャラクターの特徴や能力を決める。 ・キャラクターのセリフ（ログセ）を決める。 ・模造紙に調査用紙を貼り、ポスターを完成させる。	・各班の進捗状況をチェックし、声かけをする。 遅い場合は急がせるが、速い場合はもっとよく考えるようにする。 ・役割は分担していても、お互いの分野に対してアイディアを出し合うように声かけをする。
まとめ 10分	今後の予定の確認 ポスターの回収	

都道府県を紹介しよう

前回のプリント

目的：小論文製作で使った「情報収集」「情報整理」、新聞切り抜きで使った「まとめ方」、仲間との「役割分担・協力」で、班毎に各都道府県を紹介する。

方法：教科書地図帳・図書室・るるぶ・ネットを使って都道府県を調査する

調べる内容

①特産（農工林漁）グルメ

②文化歴史

③自然

④他（県名・県木・県鳥・県花など）

①～④を幅広くバランスよく調べないと、後で大変なことになります。

調べる方法

班の担当県・・・ 県

教科書・地図帳・・・担当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

図書室の資料・・・担当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

るるぶ・・・担当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ネット・・・担当＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

調べる時のポイント

各方法の得意分野

教科書地図帳の人：①特産（主力の産業）③地形や気候

るるぶの人　　：①グルメ　②イベント　③観光できる自然

図書室の人　　：①伝統工芸　②文化歴史　③自然

ネットの人　　：①グルメ　②イベント　④県名・県木・県鳥・県花

※ るるぶは観光雑誌なので、昔ながらの特産ではないものも PR しています。これから流行しそうなことも先取りしているので、現在流行しているとは限りません。

→教科書やネットで確認する。

※ ネットは、各県や市町村の「観光協会」や「農協」「漁協」のサイト

各県の公式 HP に結構あるキッズサイト　などをチェックすること。

予定：11/8(今日)　①調査担当を決める　②調査用紙入手　③調査開始

11/11（土曜）集めた資料のチェック（足りない所は追加調査）

11/13（月曜）集めた資料を使って発表準備

11/15 以降　発表予定

調査用紙：

１人最低 5 枚書いて来ること。

特徴　海鮮丼

新鮮魚介が集う場外市場や二条市場では、鮮度

自慢&豪快盛り付けの海鮮丼が味わえる。

図書名

webサイト名　るるぶ札幌

教科書地図帳ページ

特徴　五稜郭

星型城郭で国の特別史跡に指定されている。

戊辰戦争最後の戦いである箱館戦争の舞台。

春は桜の名所。

図書名

webサイト名　函館市公式観光情報

教科書地図帳ページ

各都道府県の宣伝キャラクターを作ろう 今回のプリント

目的：班の仲間とアイディアを出し合い、役割分担をしてより良い作品を造る。

方法：調査した各都道府県の特徴から、ご当地キャラクター（ユルくなくて良い）を作る。

◎キャラクターの特徴

①特産（農工林漁）グルメ　②文化歴史　③自然　④他（県名・県木・県鳥・県花など）

調べてきた①～④のうち、必ず **３種類以上**の特徴を入れてキャラを作る。

（例）○ ①から１つ、②から１つ、③から１つ
　　× ①から２つ、②から１つ

◎４つの仕事を班のメンバーで分担する

デザインを描く

この時間の中で完成できるものにしてください。

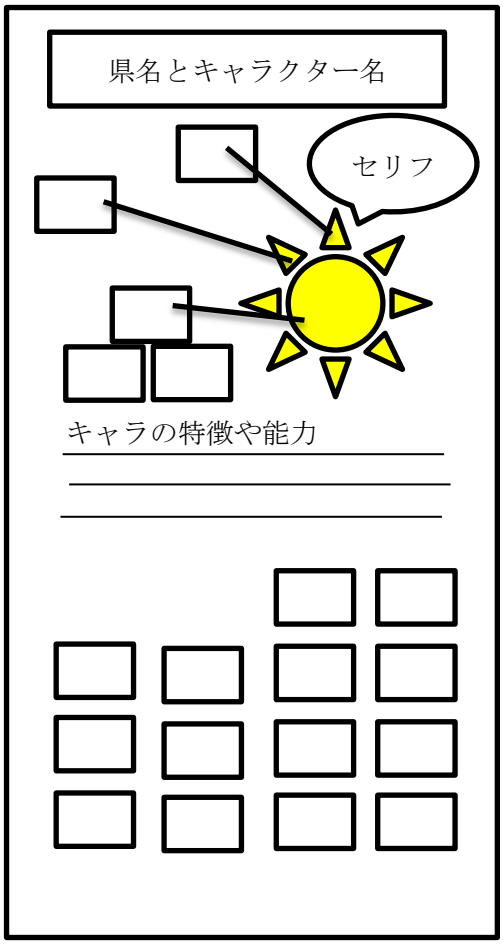
キャラクターの名前をつける

覚えやすい名前がいいでしょう。

キャラクターの特徴や能力を決める

意外な特徴があると人気につながります。

キャラクターのセリフ（ログセ）を決める



◎右図のように模造紙にまとめる

持ち寄った調査用紙を模造紙に貼る

キャラのデザインの根拠になった調査用紙を貼って、その部分と線でつなぐ。

使わなかった調査用紙はもったいないので、下の方にまとめて貼る。

※ 絶対に「〇〇っしー」や「〇〇モン」などのゆるキャラをパクらないようにしてください。
オリジナリティが大切です。

今後の予定：作成したポスターを全て貼り、人気投票（第５位まで）を行う。